

第3話：「スタートアップの罠」
(全10ページ想定)

> **概要**
> 第2話で「不正アクセス」「データ改ざん」など初歩的なサイバー被害に直面したチームは、続く第3話で急成長ベンチャー企業の案件を請け負う。
> このベンチャーには独特の企業風土や組織体制の歪みがあり、IT業界特有のスピード感が強調される。一方で、オルビス・インディアの影が色濃くなり、鹿島の挙動もより不穏に。
> **AI開発ベンチャー**×**ハッキング**×**投資ファンドの暗躍**が交錯し、物語が一気に世界規模のサスペンスへ近づく。

Page 1
Number of panels: 3コマ想定

Page Story (概要)
- **場面**: 朝のオフィス。CIPHERから「新しい案件」のブリーフィング。
- **目的**: 今回の舞台が「急成長スタートアップ企業のAI開発支援」であることを読者に伝える。
- **キーワード**: “アジャイル開発”、“クラウドネイティブ”、“超短期リリース”

Image Prompt (Page 1)
`office meeting corner, male leader briefing team, slides referencing AI startup, bright morning light`

Panel 1
- **ネーム**:
1. 構図: CIPHERがプレゼン資料を見せる。モニターに「AI開発ベンチャー: Next Frontier社」と表示。
2. セリフ:
- **CIPHER**: 「今回のクライアントは“Next Frontier社”。AIの新サービスを立ち上げるらしい。」
- **白石 (興味)**: 「AIですか…面白そう！」

Panel 2
- **ネーム**:
1. 構図: 月城が説明を補足しつつ、鹿島がやや遠巻きに聞く。
2. セリフ:
- **月城**: 「急成長中のベンチャーで、開発ペースが異常に早い。既存のセキュリティが追いついてない可能性があるわね。」
- **鹿島 (小声)**: 「……まあ、そうだろうな。」

Panel 3
- **ネーム**:
1. 構図: 橋が意気込んで前のめり。
2. セリフ:
- **橋**: 「僕もAI分野には興味あります！ぜひ全力でサポートしたいです！」
- **CIPHER (淡々)**: 「じゃあすぐに先方と打ち合わせだ。あちらも時間がないらしい。」

Page 2
Number of panels: 3コマ想定

Page Story (概要)
- **場面**: ベンチャー企業のオフィスに訪問。明るく自由な雰囲気だが、どこか慌ただしい。
- **目的**: スタートアップ特有のスピード感・雑然とした環境を見せ、新人2人がカルチャーショックを受ける。
- **キーワード**: “アジャイル開発の混沌”、“若い社員”、“VC (投資家) の存在”

Image Prompt (Page 2)

`modern but messy startup office, young staff rushing around, whiteboards covered in code and flowcharts, bright and energetic`

Panel 1

- **ネーム**:

1. 構図: エレベーターを降りた橘・白石・月城がオフィス内を見渡す。
2. セリフ:
 - **白石**: 「な、なんだか賑やか…というかバタバタですね…！」
 - **橘（興味津々）**: 「机に山積みの資料、壁には無数のタスク付箋…」

Panel 2

- **ネーム**:

1. 構図: 若手社員が走り回っている。スプリントレビュー中のようなホワイトボードが見える。
2. セリフ:
 - **若手社員A**: 「あ、すみません通ります！ デザインリリースの締め切りが明日で…！」
 - **白石（道を譲る）**: 「あ、はい、どうぞ…！」

Panel 3

- **ネーム**:

1. 構図: 月城が苦笑いしつつ、新人をフォロー。
2. セリフ:
 - **月城**: 「“アジャイル開発”の現場はこんな感じ。テンポが速いわよ。」
 - **橘**: 「うわあ、想像以上だ…」

Page 3

Number of panels: 3コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**: スタートアップのCTO（技術責任者）と打ち合わせ。AIシステムが頻繁にエラーを起こしていると相談。
- **目的**: トラブル状況の把握&案件の本質を説明。
- **キーワード**: “クラウド環境”、“コンテナ技術”、“デプロイ頻度が高過ぎる”

Image Prompt (Page 3)

`startup meeting room, cto explaining system issues, laptop with error logs, tense but young vibe`

Panel 1

- **ネーム**:

1. 構図: ガラス張りの小会議室でCTOと対面。
2. セリフ:
 - **CTO**: 「短期間で機能を詰め込みすぎて、クラウドの負荷管理が追いついてないんですよ。コンテナがしょっちゅう落ちる。」
 - **橘（真剣）**: 「なるほど…CI/CDパイプラインに問題があるんですね。」

Panel 2

- **ネーム**:

1. 構図: 白石がスケジュール確認する。CTOが焦りを見せる。
2. セリフ:
 - **白石**: 「リリースはいつ頃を予定してるんでしょうか？」
 - **CTO（苦笑）**: 「実は…来週がデモ発表で、出資者向けにAIのプロトタイプを公開したいんです。」
 - **橘（驚愕）**: 「来週…！？ そんな短期間で…！」

Panel 3

- **ネーム**:

1. 構図: 月城が落ち着いてフォロー。
2. セリフ:

- **月城**：「わかりました。まずはシステムのログとインフラ構成を見せてください。可能な限り安定化を手伝います。」
- **CT0**：「助かります…正直もう手が回らなくて…」

Page 4

Number of panels：3コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**：システムトラブル対応の最中、同社で“スパイ疑惑”が浮上。社員の一人が怪しい動きをしているらしいとCT0が囁く。
- **目的**：サスペンス要素を追加。投資家（カトリヌ）または外部勢力の絡みを匂わせる。

Image Prompt (Page 4)

`startup office, suspicious employee figure in the background, team discussing spy possibility, partial tension`

Panel 1

- **ネーム**：

1. **構図**：CT0が小声で橘 & 白石に打ち明け話。
2. セリフ：
 - **CT0**：「実は…うちの開発データが流出してるっぽいんだ。ソースコードが外部に漏れてる可能性がある。」
 - **白石（驚き）**：「えっ…社内の誰かが？」

Panel 2

- **ネーム**：

1. **構図**：CT0が神経質に周囲を見回す。
2. セリフ：
 - **CT0**：「確証はないが、一部社員が怪しい。海外から多額の出資を受けてる投資家とも繋がってるかも…」
 - **橘（警戒）**：「出資者…まさか何か陰謀が？」

Panel 3

- **ネーム**：

1. **構図**：カメラが引いて、廊下の奥に“アリサ・ミュラー”（フリーのハッカー）らしき女性シルエットが映る。
2. セリフ：
 - **モノローグ（ナレ）**：「このベンチャーの華やかな舞台裏に、何者かの不穏な気配が確かに存在していた…」

Page 5

Number of panels：3コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**：橘・白石・月城がAIシステムの問題点を突き止め、改善方針を提案する。
- **目的**：テクノロジー要素（クラウドネイティブ、コンテナ、CI/CD）をわかりやすく演出し、新人たちの成長を見せる。

Image Prompt (Page 5)

`startup dev corner, engineers discussing container logs, anime style, whiteboards and laptops`

Panel 1

- **ネーム**：

1. **構図**：橘がコンテナ管理画面を覗き込み、白石がログファイルを見ている。
2. セリフ：
 - **橘**：「リソース不足で頻繁にコンテナがクラッシュしてます。このスクリプトが無限ループに…」
 - **白石**：「負荷テストもほとんどやってないみたいですね…納期優先で。」

Panel 2

- **ネーム**:
 1. **構図**: 月城が二人に指示。
 2. セリフ:
 - **月城**: 「じゃあクラウドのオートスケーリングを設定しましょう。デプロイパイプラインも整理して、エラー時のロールバックを早めに行えるようにする。」
 - **橘（サツとメモ）**: 「了解です！ これで安定するはず…！」

Panel 3

- **ネーム**:
 1. **構図**: 白石が社内に貼り出されたタスクボードを見ながら呆れ顔。
 2. セリフ:
 - **白石**: 「すごいタスク量…みんなギリギリの状態なんだな。」
 - **月城（苦笑）**: 「ベンチャーって大変ね。でもやり甲斐はありそう。」

Page 6

Number of panels: 3コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**: 企業スパイを思わせる怪しい挙動が目撃される。アリサ・ミュラー（敵ハッカー）が社内システムに不正アクセスの仕込みをしているシーン。
- **目的**: 敵サイドの描写。サスペンスを高める。

Image Prompt (Page 6)

`dimly lit corner of startup office, female hacker at laptop, sly smirk, partial silhouette, anime style coloring`

Panel 1

- **ネーム**:
 1. **構図**: アリサが他の社員がいない隙にサーバールームへ向かおうとする。
 2. **セリフ**:
 - **アリサ（心の声）**: 「フフ…このAIアルゴリズム、使えそうじゃない。」

Panel 2

- **ネーム**:
 1. **構図**: ラップトップ画面に、機密コードやバックドアをインストールしている様子。
 2. **セリフ**:
 - **アリサ（つぶやき）**: 「このパッチを忍ばせれば、外部から自由に覗ける…報酬が楽しみね。」

Panel 3

- **ネーム**:
 1. **構図**: 遠くから白石がアリサの姿をチラッと見かけるが、はっきりはわからない。
 2. **セリフ**:
 - **白石（心の声）**: 「あの人…社員さんじゃないよね？ 誰だろう…？」

Page 7

Number of panels: 3コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**: 鹿島が社外のどこかで連絡を受け、カトリーヌ・スレイドら海外投資ファンドとの結託を匂わす。
- **目的**: 敵組織（オルビス・インシディア）の影と鹿島の裏切り要素をまた一歩進める。

Image Prompt (Page 7)

`urban cafe or quiet street, male engineer on phone, mention of catherine slade or foreign fund, anxious expression`

Panel 1

- **ネーム**:

1. **構図**: 鹿島が街角のカフェか、静かな路地でスマホ通話。
2. **セリフ**:
 - **鹿島**: 「…はい。スタートアップ企業のAIコードは魅力的だとか…わかりました、動きます。」
 - **SFX**: 「ブツッ（通話終了）」

Panel 2

- **ネーム**:

1. **構図**: スマホ画面に「Catherine S.」などの名義が一瞬映る。
2. **セリフ**:
 - **鹿島（心の声）**: 「（あの投資ファンド…結局はあの組織に繋がってるってことか…）」

Panel 3

- **ネーム**:

1. **構図**: 鹿島の顔アップ。苦渋を滲ませる表情。
2. **セリフ**:
 - **鹿島（心の声）**: 「（でも…家族を守るためには逆らえない…すまない、みんな…）」

Page 8

Number of panels: 3コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**: ベンチャー企業での作業が追い込みに入り、橘や白石がデプロイやテストに奔走。AI動作デモがなんとか形になってきた。
- **目的**: テンポが速いアジャイル開発シーンの描写。2人の成長ぶりを示す。

Image Prompt (Page 8)

`startup dev corner, two newcomers frantically coding and testing, success glimpses, anime style coloring`

Panel 1

- **ネーム**:

1. **構図**: デプロイ完了画面が表示され、橘がガッツポーズ。
2. **セリフ**:
 - **橘**: 「よし…デモ用のAIモジュール、クラウド上で安定稼働しました！」
 - **白石（確認）**: 「テストユーザーからのフィードバックも良好です…！」

Panel 2

- **ネーム**:

1. **構図**: 月城がモニターを覗いて微笑む。
2. **セリフ**:
 - **月城**: 「二人ともよく頑張ったね。これならデモは大丈夫そう。」
 - **白石（嬉しそう）**: 「はい…なんとか間に合いました！」

Panel 3

- **ネーム**:

1. **構図**: CIPHERが少し離れたところでノートPCを操作し、先ほどの不審アクセスについて調べ続けている。
2. **セリフ**:
 - **CIPHER（心の声）**: 「（アリサ…？ この端末に変な痕跡がある…まさか既に仕込まれてるのか？）」

Page 9

Number of panels: 3コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**: デモ直前、CTOやスタッフが集まり、成果を喜ぶ。しかし一部システムで怪しい挙動が始まる。アリサの仕業か、鹿島経由か不明。
- **目的**: 最後の一波乱を起こし、サスペンス強度を高める。次回への引きを作る。

Image Prompt (Page 9)

`startup event corner, cto and staff celebrating small success, sudden system glitch, tense vibe`

Panel 1

- **名前**:
 1. **構図**: CTOと新人たちがホッと一息、軽いハイタッチや拍手。
 2. **セリフ**:
 - **CTO**: 「ありがとう！ おかげで明日のデモは希望が見えてきたよ！」
 - **橘&白石**: 「いえいえ、こちらこそ。」

Panel 2

- **名前**:
 1. **構図**: 突然、警告音or画面上のエラーメッセージが響く。
 2. **セリフ**:
 - **SFX**: 「ピコーン！ エラー: Security breach detected…」
 - **白石（驚き）**: 「えっ、また…！？」

Panel 3

- **名前**:
 1. **構図**: 橘が画面を覗いて青ざめる。
 2. **セリフ**:
 - **橘**: 「AIの中核コードが誰かにコピーされてる…！？ どこから?!」
 - **CTO（絶句）**: 「何だって…！」

Page 10

Number of panels: 3〜4コマ想定

Page Story (概要)

- **場面**: カメラが切り替わり、アリサと思しき女性が外部からリモートでアクセス完了。カトリーヌ（投資家）の指示を受けている様子。鹿島もその動きを知っているかのようにはスマホを握りしめる。
- **目的**: 第3話のクライマックス。企業スパイ行為が露呈し、ベンチャー企業が危機に。オルビス・インシディアやカトリーヌの存在を強く示唆する。

Image Prompt (Page 10)

`nighttime infiltration, female hacker silhouette on laptop, mention of catherine slade, male engineer distressed, anime style`

Panel 1

- **名前**:
 1. **構図**: アリサが路地裏か暗いカフェでノートPCを操作。
 2. **セリフ**:
 - **アリサ**: 「OK…AIソースコードのコピー完了。報酬はしっかりもらうわよ…」
 - **SFX**: 「ピコン…（送信成功）」

Panel 2

- **名前**:
 1. **構図**: カトリーヌ・スレイドの名前か姿がちらっと映る。
 2. **セリフ**:
 - **カトリーヌ（電話越し）**: 「Excellent work. This will be quite profitable.」
 - **アリサ**: 「フフ…お金、大好きだからね。」

Panel 3

- **ネーム**:

1. **構図**: 鹿島がスマホを握りしめ、苦しげな表情。
2. **セリフ**:
 - **鹿島（心の声）**: 「（こんな形で技術が抜き取られるとは…だけど、俺には止める権利は…）」
 - **モノローグ（ナレ）**: 「ベンチャー企業が必死に築き上げた夢。その核心が、闇にさらわれようとしている——」

(Optional 4コマ目)

- **ネーム**:

1. カメラがスタートアップオフィスに戻り、慌てふためく新人たち。デモ前日にシステムが崩壊寸前？
2. **CIPHER**が険しい顔で「これ、ただの事故じゃない…確信犯だ。」
3. **次回予告風の締め**: 「果たしてAI企業の運命は？ 鹿島の隠された苦悩は？ 次回、『見えない敵』へ…！」

まとめ

- **第3話**では、スタートアップを舞台にしたAI開発案件と企業スパイ要素を盛り込み、IT業界特有のスピード感と混乱が描かれます。
- **新たな敵キャラクター（アリサ）や投資家カトリーヌ**が動き出し、**鹿島の裏切り**を一層色濃く示唆。
- 最後はAIの核心技術が盗まれる場面で終わり、読者に「どうなるのか!？」という緊迫感を与える構成です。